

アレクサンデル六世 クリスマスミサ 典礼書より

*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II  
consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*

(神奈川大学図書館 所蔵)

## CONTENTS

●2017年はとりの年	2頁
●図書館展示 「樹 — その生命とイメージ」	4頁
●2016年 横浜図書館展示報告	6頁
●図書館の所蔵資料紹介 BAUHAUS — バウハウス	7頁
●図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記	8頁

# 2017年はとりの年

## とり



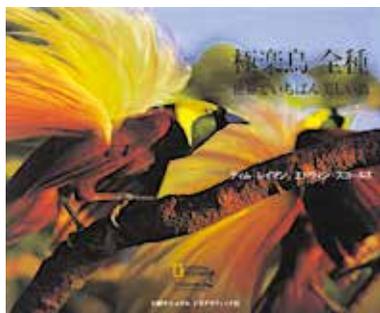
1. (鳥) からだ全体が羽毛で覆われ、翼で空中を飛ぶ恒温動物。鳥類。
2. (鶏) にわとり。
3. 鳥肉。特に、鶏の肉。

(デジタル大辞泉, JapanKnowledgeより)

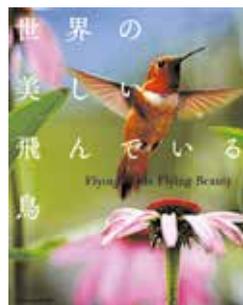
2017年は十二支の“酉”にあたる年です。この“酉”は、上記の 2. (鶏) にわとり を指しますが、一般に「とり」と言った場合、上記の 1. の定義に当てはまる「鳥」を連想することが多いでしょう。

図書館でも美しい鳥の写真集やその生態を解説した本など、さまざまな「とり」の本を所蔵しています。

## とりはうつくしい!

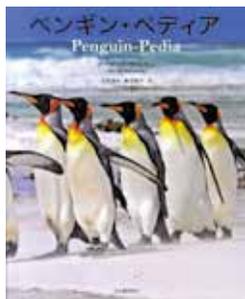


**極楽鳥全種**  
世界でいちばん美しい鳥  
T.レイマン、E.スコールズ著  
黒沢令子訳  
東京:日経ナショナルジオグラフィック社, 2013.11  
【請求記号】B488-122 (横浜)

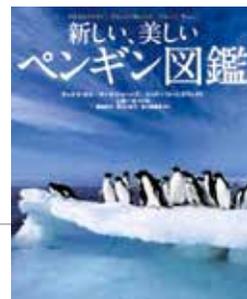


**世界の美しい飛んでいる鳥**  
東京:エクスナレッジ, 2013.12  
【請求記号】488-4 (平塚)

## ペンギンだってとりなんです。



**ペンギン・ペディア**  
D・サロモン著;出原速夫, 菱沼裕子訳  
東京:河出書房新社, 2013.7  
【請求記号】B488-116 (横浜)



**新しい、美しいペンギン図鑑**  
T.ロイ, M.ジョーンズ, J.コーンスウェイト著  
裏地良子, 他翻訳 東京:エクスナレッジ, 2014.11  
【請求記号】B488-127 (横浜)

## 白鳥たちの人生

### 瀕死の白鳥:亡命者エリアナ・パブロバの生涯

大野芳著 東京:新潮社, 1999.12

エリアナ・パブロバはロシア革命を逃れ日本に亡命、鎌倉七里ヶ浜に日本で初めてバレエ教室を開いた「日本バレエの母」である。日本が戦争に向かっていく時代に日本に帰化し、慰問先の南京で病死した。

【請求記号】 B760-949 (横浜)



マイヤ・プリセツカヤ

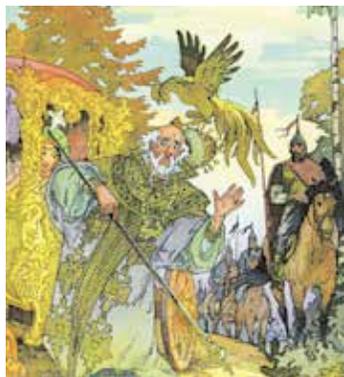
### 闘う白鳥:マイヤ・プリセツカヤ自伝

マイヤ・プリセツカヤ著 山下健二訳 東京:文芸春秋, 1996.6

ロシアのダンサー、世界最高のバレリーナと称されたプリセツカヤの自伝。代名詞的な作品と言われる「瀕死の白鳥」は、YouTubeで観る事が出来る。日本にも何度も来日しバレエ界の発展にも貢献した。

【請求記号】 B760-714 (横浜) / 769.38-1 (平塚)

## 文学と とり



### 金の鶏

A.プーシキン作; V.ナザールク絵; みやこうせい訳・解説  
東京:未知谷, 2004.11

愚かな王と災いを預言する金のにわたりの物語詩。プーシキンは『エウゲニー・オネーギン』の作者。ロシアの国民文学および近代文章語の確立者である。

【請求記号】 B981-27 (横浜)

### 大鴉:ポー訳詩集

E・A・ポー, 加島祥造著 (加島祥造セレクション)  
鎌倉:港の人, 2009.6

最初の推理小説を書いたエドガー・アラン・ポーによって1845年に発表された詩。当時大きな評判を呼び、現在でも映画や音楽などに引用されている。この詩の鴉(raven)は、日本の鳥とは違い、ヨーロッパと北米に分布し鳴き声も違うようだ。

【請求記号】 B908.1-3-16 (横浜)

## からすは嫌われ者?



カラスはホントに悪者か  
大田眞也著  
福岡:弦書房, 2007.6  
【請求記号】 B488-88 (横浜)

### カラスの教科書

松原始著  
東京:雷鳥社, 2013.1  
【請求記号】 B488-112(横浜)  
488.99-5 (平塚)



図書館には、他にもたくさんの「とり」に関する本があります。ぜひ手に取ってみてください。

# 樹 その生命と イメージ

樹は、太古より人間にとって無くてはならない存在でした。上へ上へと限りなく上昇し、神々の住む天空に近づく樹は天と地を結びつける神聖な存在であり、天・空中・地下の三つの世界に生きる樹は宇宙の中心であり、また、冬には枯れ、春になれば一斉に芽吹き再生する樹は、生と死を永遠に繰り返す神秘的な存在でもありました。

いずれの文明においても樹は象徴的意味を持ち、神聖な力を持つ特別な存在として神話や宗教のエピソードで重要な役割を果たし、そのイメージは多くの芸術家達にインスピレーションを与えました。また、樹には人知を超える知をもたらす力があるとも考えられ、本 (book) という語は、古英語でブナの樹を表す (beech) と深い関わりがあるとされています。今回の展示では樹が象徴する様々な世界とイメージを図書館の蔵書を通して紹介しました。

## 展示コーナー1 宇宙樹、生命の樹、知恵の樹、神々の樹

「宇宙樹」または「世界樹」と呼ばれる全ての中心に位置する巨大な樹木。その代表的な存在が北欧神話の「ユグドラシル」です。また、「生命の樹」はゴシック様式の聖堂として有名なシャルトル大聖堂のステンドグラスの「エッセイの樹」の図版を展示しました。「知恵の樹」では“善悪の知識の樹”からその実を食べ、楽園 — エデンの園から追放されるという旧約聖書のテーマによるミケランジェロの絵画《楽園追放》を、「神々の樹」では、ヨーロッパにおけるオークとヤドリギへの信仰と、ギリシア神話における月桂樹をテーマにした図版を展示しました。



- 宇宙樹 世界樹 / ユグドラシルとトネリコ
- 生命の樹 / エッセイの樹
- 知恵の樹 / ミケランジェロ《楽園追放》
- 神々の樹 / オークとドルイド、月桂樹とギリシア神話

## 展示コーナー2 芸術、事典と樹

彫刻（オータンの《エヴァ》）、絵画（アルチンボルド）、工芸（古代の陶器）などに表現された樹の図版や、パリ・コミュニケーション政治諷刺画コレクションの版画（ドーミエ）、書籍に写真印刷ができなかった時代の19世紀の百科事典に描かれた樹を展示しました。

■ オータンの《エヴァ》1125-1135年（サン・ラザール大聖堂／ロラン美術館）

■ アルチンボルドの樹

■ 古代の陶器に描かれた樹 《男と二本の樹木》  
《戦士の死を嘆き悲しむ女性》



■ パリ・コミュニケーション諷刺画  
ドーミエ

《哀れなフランス 幹は折れても根はしっかりしている》

■ 19世紀 ゲラン『博物学事典』の図版による様々な樹



## 展示コーナー3 樹—多様なイメージ

様々な事柄の進化や関連を示すために樹木のような形を使って視覚化した図を系統樹と呼び、物事の分類や順序、相対するもの、あるいは多様性を分かりやすく説明するのに使われています。その他にも印刷術発明初期の『世界年代記』（ファクシミリ版）から《ノアの家系図》を、また、大聖堂の内部の樹のような柱や、樹が登場する文学や印刷所の商標（プリンターズ・マーク）など、様々なジャンルに表わされる樹のイメージを展示しました。

■ 系統樹

シェーデル『世界年代記（1493年）』（ファクシミリ版）より《ノアの家系図》

チャールズ・ダーウィン『種の起源』の系統樹

トインビー「イギリスが世界の諸文化にもつ根」

学問分類『人間知識の系統図』百科全書 新版より

■ ゴシック聖堂の「ヤシの葉ヴォールト」

■ ウィリアム・ブレイクの樹

ブレイク『無垢の歌』（無垢と経験の歌より）

ブレイク『天国と地獄の結婚』

■ 樹と文学

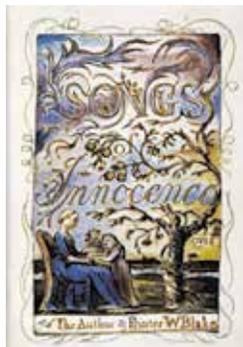
『ジャックと豆の木』

『星の王子様』とバオバブの樹

■ 書物と樹

プリンターズ・マーク

蔵書票



ブレイク『無垢の歌』



ゴシック聖堂の「ヤシの葉ヴォールト」



『ジャックと豆の木』

### 「樹—その生命とイメージ」

期間：2016年10月17日(月)～12月中旬

場所：横浜図書館 1F展示ホール

## 2016年 横浜図書館 展示報告

横浜図書館の玄関を入り、すぐ右側の階段を上ると1Fに展示コーナーがあります。2016年も横浜図書館では様々な展示を行いました。展示では普段は目にすることのない稀覯本や、特殊な研究に使われ一般にはあまり知られていない資料を一定のテーマのもとで紹介しています。今年行った図書館展示を振り返ります。

### 凧—またの名をいかのぼりといふ— (会期：2016年1月7日—2月29日)

子供の玩具であると同時に魔除けなどの民間信仰や華やかな江戸の文化とも深く結びついている凧。展示では日本各地で作られた郷土色を反映した凧の図柄や、凧の説明が記された江戸時代の百科事典、江戸、明治期の書物に描かれた凧揚げの風景などを紹介しました。



### Wikipediaのルーツがここにある—百科事典を知る (会期：2016年3月14日—5月31日)



百科事典の歴史は知の歴史そのものであり、人類が蓄積してきた知識を広く伝えるため、時には資金不足や検閲という困難に遭いながらも事業を完成させた編纂者、執筆者達の膨大な時間と労力の賜物でもあります。展示では世界に影響を与え重要な役割を果たした百科事典を紹介しました。

### 妖怪—変化<sup>へんげ</sup>するものたち— (会期：2016年6月4日—7月14日)

日本には古くから、どんなものにも魂がこもっていると信じる文化があり、動物や器物などが変化(へんげ)して人々を驚かす話が数多く伝わっています。展示では「変化」をテーマに、絵巻物や書物の中で語られた妖怪に関する資料を紹介しました。



### 宇宙での暮らし (会期：2016年7月23日—9月25日)

宇宙で暮らすことは夢ではなく既に現実となりました。展示では「宇宙での生活拠点」「宇宙で暮らすリスク」「宇宙への移動手段」という切り口から宇宙での暮らしと今後の課題や問題について紹介しました。

### 樹—その生命とイメージ (会期：2016年10月17日—12月中旬)

多くの文明において樹は象徴的意味を持ち、知恵の樹、生命の樹、また、神聖な力を持つ特別な存在として大切に扱われました。樹が象徴する世界と様々なイメージを図書館の蔵書を通じて紹介しました。

※図書館では2017年も様々な展示を予定しています。詳細はポスター、HPなどをご覧ください。

# BAUHAUS

## バウハウス

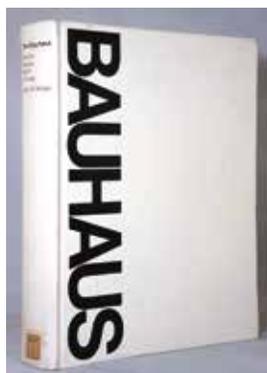
第一次世界大戦終結の1918年、ドイツ帝国は終焉を告げ1919年ワイマール共和国が成立する。同じ年、ワイマールの美術学校と工芸学校を統合した新しい建築・美術学校が設立され、建築家ヴァルター・グロピウスが校長に就任する。グロピウスは新しい学校を「ワイマール国立バウハウス」と名付けた。

バウハウスとは「建築（バウ）の家」を意味する。その基になった言葉は、中世の聖堂建築の職人達が集まる現場小屋を指した「バウヒュッテ」で、その言葉はやがて建築職人組合を指すようになった。中世の大聖堂は建築工事とそれを装飾する彫刻や絵画などのあらゆる部門の技術家や芸術家が集い、諸芸術の統合の結果として完成されたものであり、高くそびえる教会堂はその地域の共同体社会の中心であった。バウハウスという名には職人と芸術家による諸造形芸術の統合、共同体社会と建築に関する理念が込められている。

“すべての造形活動の最終目的は建築（Bau）である”という有名な一文で始まる「バウハウス創立宣言書」はドイツ全国に向けて発表され、ワイマールにはドイツ各地やオーストリアから多くの若者が集まった。バウハウスの教育プログラムには設立当初から1933年の閉鎖までに変遷が見られるが、教授陣にはパウル・クレー、カンディンスキー、モホリ=ナギなど当時第一級の芸術家達やマルセル・ブロイヤー、ミース・ファン・デル・ローエなどのデザイナー、建築家が在籍した。設立当初から基礎教育を担当したヨハネス・イッテンはバウハウスの歴史にとって特別な存在で、その後の造形教育にも影響を与えた。修道服を着た丸坊主のイッテンによる授業は個人の内面の解放、素材の体験、視覚芸術の基礎原理の理解を目的とし、学生達に大きな影響を与えたが、次第にグロピウスの教育方針と合わなくなりバウハウスを去る。新たに教授としてラーズロー・モホリ=ナギを迎え、その理念を「芸術と技術の新しい統一」という明確な姿勢で打ち出したバウハウスはデッサウ時代、機械工業生産の方式に適した試作モデルの製作を行う実験工房へと転換し、芸術と産業を結ぶデザインを作り出すという活動によって様々な作品を生み出していく。

その存続が1919年から1933年というわずかな期間であるにもかかわらず、バウハウスの歴史は容易に語りつくせるものではない。生活と技術、大衆と芸術といったあり方に対して掲げた思想、そしてその教育・造形活動によって作り出された工芸品や建築はそれらの分野のみならず、一つの文化を作り上げたと言われる。バウハウスの設立は、もはや百年

近く前のことである。しかし今でもこの学校で作られたものを見れば、そこに息づく思想や掲げられた理想を感じ取る事が出来るのではないだろうか。残念ながらこれらの作品や建築などの実物を見るのは困難である。しかしその多くは写真で記録され、書籍の図版などで見ることができる。



【請求記号】A520.4-1-11（横浜）



【請求記号】A750-37（横浜）



【請求記号】B740-53（横浜）

（資料サービス課 荻原 直子）

# 図書館からののお知らせ

## 横浜・平塚共通

### ■冬季長期貸出について

対象…学部生  
貸出受付期間…2016年12月5日(月)～12月24日(土)  
返却期限日…2017年1月12日(木)  
冊数…10冊

### ■春季長期貸出について

対象…学部生(卒年次生)  
貸出受付期間…2017年1月23日(月)～3月7日(火)  
返却期限日…2017年3月21日(火)  
冊数…10冊  
対象…学部生(在校生)  
貸出受付期間…2017年1月23日(月)～3月24日(金)  
返却期限日…2017年4月7日(金)  
冊数…10冊

### ■年末年始の休館日について

期間…2016年12月27日(火)～2017年1月6日(金)

### ■一般公開休止について

後期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期間…2017年1月7日(土)～1月30日(月)

## 平塚

### ■休日開館の実施について

以下の日程で、休日開館を行います。  
2016年12月4・11・18・23日の各日曜日・祝日  
開館時間…10:10～16:50  
2017年1月8・9・15・22・29日の各日曜日・祝日  
開館時間…9:10～16:50

### ■12月22日(木)、1月14日(土)の開館について

休講につき開館時間を短縮します。  
開館時間…9:10～16:50

## 編集後記

クリスマスを舞台にした小説といえば『クリスマス・キャロル』を思い浮かべる人も多いだろう。貧しくも温かい人々がクリスマスを祝う情景と冷酷な老人スクルージの改心を描いたこの作品は、1843年イギリスの国民的作家ディケンズによって発表された。そのディケンズ作品の中でも同じ位人気が高いのが1859年に発表された『二都物語』である。

『二都物語』は話の展開がドラマチックでミステリーの要素もあり、エンターテインメント小説と言ってもいい程、面白い。物語はフランス革命前夜からロンドンとパリの二都を舞台に、ルーシー・マネット、チャールズ・ダーネイ、シドニー・カートン、ルーシーの父親マネット医師を中心に歴史に翻弄される人々の運命を描く。ハラハラするストーリーと感動の結末。そしてもう一つ、この作品に描かれるのが「勝者の残虐性」である。

物語では他人の人生を突然に奪い、何ら罪の意識も持たない貴族達の冷酷さが描かれるが、革命後に勝者となった一部の市民の残虐性もそれ以上に無慈悲なものとして描かれる。正義や理想を掲げ勝利した者は、いつの間にか怪物に変貌する事がある。物語でも勝者になった者達が、虐げられ罪のない人々までも殺戮していく様子が描かれる。

物語の最後、主人公達を救うのはそれまでの人生で一度も勝者になったことのない男、シドニー・カートンである。古典的な「愛は世界を救う」的なお話でしょ、と侮ってはいけない。古典的名作とは、いまだに世界が解決できないテーマを読み手に考えさせ、想像力をかきたて、楽しませてくれる人類の財産なのである。(N.E.)

## 今号の表紙

### 『アレクサンデル六世 クリスマスマサ典礼書』15世紀末(ファクシミリ版)

*Codices e Vaticanis selecti quam simillime expressi iussu Ioannis Pauli PP II consilio et opera curatorum Bibliothecae Vaticanae*

三巻の教皇ミサ典礼書の第一巻で、サン・ピエトロ寺院で行われるクリスマスの第3ミサ(午前9時頃のミサ)において教皇が礼拝するための典礼書として使われた。注文主である教皇アレクサンデル六世の次男チェーザレ・ボルジアはマキャベッリの『君主論』で叙述された専制君主である。この写本の制作には最高級の羊皮紙が使用され文字を彩る豪華な装飾や挿絵、ふんだんに使われた金は当時のカトリック教会の威光と「教皇の威厳」を表している。

